

2022 年 感染防止対策室業務活動報告

感染防止対策室主査

荒木大輔

感染防止対策室長

今 信一郎

はじめに

2022 年、今年こそは新型コロナウイルス感染症は終息し、日常が戻ると期待していたが、このウイルスは今年もさらに変異し、猛威を振るい続け、昨年以上に全職員がその対応や感染対策に追われた一年であった。大規模クラスターも複数回経験し、何度も心が折れそうになりながらも各部署および職員一人ひとりの理解や協力を頂きながら何とか乗り越えることができた。今年も新型コロナウイルス対応が日常業務の中心となり、研修会をはじめ多くの業務の縮小を余儀なくされた。以下に今年の活動内容を報告する。

1. 新型コロナウイルス感染症

2021 年 10 月から 12 月は陽性者の入院はなく、一息ついたところであったが、「オミクロン株」の出現により、当初は軽症であっても入院という措置が取られ、当院でも 1 月 5 日より再度感染症病棟が稼働となり、オミクロン株の陽性患者を受け入れた。治療では、ゼビュディ® 点滴のための日帰り入院や内服薬ラゲブリオ® の処方依頼が保健所より相次いだ。また、管内の透析患者の陽性者も多く、療養期間中の透析を日帰り入院として感染症病棟で実施する患者も受け入れ、この 1 年は、陽性者の入院がゼロとなる日は数えるほどであった。秋以降の院内クラスターの発生もあり、院内発生的一般病棟での療養者を含め、1 年間の陽性入院患者数は延べ 313 名に上った。

10 月には、4 階東病棟で 70 名を超える大規模クラスターを経験した。同時期に 3 階東・5 階東・6 階東病棟でも入院患者の院内感染が発生し、保健所の指示の下、接触者スクリーニングやゾーニングなどの対応に追われた。11 月 16 日には北海道全体で、1 日の陽性者数が初めて 1 万人を超え、救急外来では、搬送された患者が入院時 PCR 検査で陽性となるケースが相次ぎ、呼吸器内科以外の患者が感染症病棟で入院となることが多くなった。さらに、12 月初旬より、6 階西病棟をはじめ、3 階

東・3 階西・HCU 病棟においてもクラスターが発生した。この期間は、職員が陽性となるケースや家族の陽性に伴う濃厚接触者となって勤務を休まざるを得ないケースが急増し、各部署の通常業務体制の維持に苦勞した。救急外来の休止や陽性者対応スタッフの人員確保のため、ICU の閉鎖、定期手術を原則中止とし、手術室看護師を各病棟に派遣等、これまでにない診療体制の大幅な縮小も行い、陽性者数を最小限に抑えるため翻弄し、院内感染が病院経営に与える影響も改めて実感した。この時期は、室蘭保健所管内でも感染状況は同様で、連日、病院や介護療養施設でのクラスターが発生しており、地域全体の医療体制にも当院のクラスター発生は大きな影響を与えた。

3 月 16 日より入院患者の荷物の受け渡し体制を変更し、ワクチンは、7 月と 12 月の 2 回接種を行った。今後、この新型コロナウイルス感染症は季節性インフルエンザと同じ 5 類相当となる見通しである。これからもどうウイルスが変異し、流行を続けていくのかは想像できない部分も大きいですが、これまでの経験を踏まえ、病院に出入りする人全てを感染から守るという基本的な考えのもと、職員一丸となって取り組んでいきたい。

2. MRSA・緑膿菌の在院患者当たりの陽性者率 (図 1・図 2)

2022 年における MRSA、緑膿菌の在院患者当たりの陽性者率は、2.03%、3.29% となり、どちらも大きく増加した。3 年毎の陽性者率では、MRSA は減少傾向が続いている。

3. リンクスタッフ活動 (表 1)

任期を 2 年とし、体制を変更したリンクスタッフ活動は 2 年目を迎えた。今年も新型コロナの影響で、思うような活動ができていない。活動発表についても集合での発表会は開催できず、集録の配布のみとした。

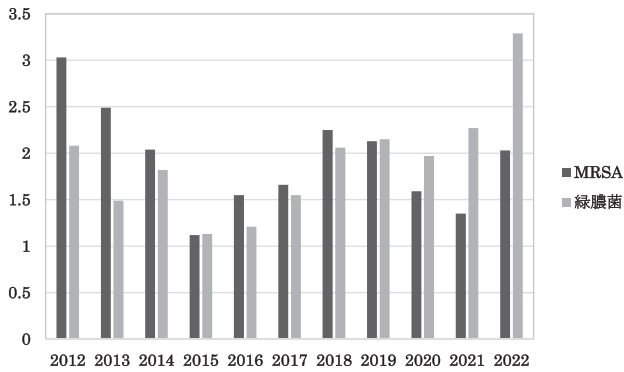


図1 MRSA・緑膿菌の在院患者当たりの陽性者率 (%)

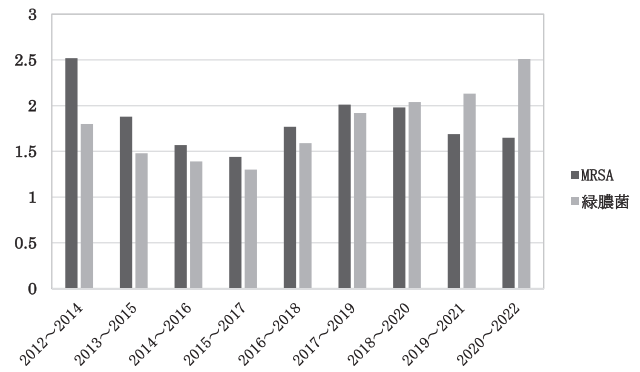


図2 3年毎のMRSA・緑膿菌在院患者当たりの陽性者率 (%)

表1 2021年度リンクスタッフ活動発表会

	所属	氏名	演題名
1	HCU	村椿 涼太	手袋2重履きは清潔なのか
2	地域連携室	渡邊 勇貴	他職種間における手指衛生の認識、意識調査
3	3階東病棟	加藤恵里香	-google着用の習慣化に向けての取り組み
4	4階西病棟	外崎 みく	ミキシング台の汚染度調査と環境整備による感染リスク削減について
5	外来部門	吉田かおる	外来の混雑状況と二酸化炭素濃度の関係
6	リハビリテーション科	福本凌太郎	アルコール使用量の増加と手荒れ予防に対する取り組みの検討
7	薬局	足達 芳恵	日常からの手洗いや手指消毒など手指衛生の徹底を目指して
8	4階南病棟	沢出 知美	感染予防の意識向上を目指して ～個人防護具に対する取り組み～
9	5階東病棟	松永 京華	歩行補助具の清拭の徹底にむけて
10	6階西病棟	門傳英里華	癌化学療法を行う患者の感染予防に繋がる口腔ケアへの取り組み

4. 西胆振感染対策地域ネットワーク

(表2・3・4・5 写真1・2・3)

2022年は4月に感染に係る診療報酬が再び大きく見直され、名称も「感染対策向上加算」へと変更となった。入院医療機関だけでなく、外来においても加算算定が可能となり、地域全体での感染対策の底上げの方針が示された。当院は感染対策向上加算1、さらに、今回より専従看護師が他の医療機関へ年4回訪問し、感染対策のアドバイスをを行う指導強化加算も算定した。保健所や医師会との連携も要件となり、未加算の5施設を含め19

施設が連携し、コロナ禍の中、例年以上にコンサルテーション件数の方も活発となっている。また、今年は当院がネットワーク事務局を担当し、年4回のカンファレンスのうち、1回は新興感染症を想定した訓練の実施が必須であり、各施設がクラスター対応に追われる中、当院体育館で開催することができた。ネットワークは2012年より発足し10年目を迎えた。今後もさらなる発展を目指し取り組んでいきたい。

表2 西胆振感染対策地域ネットワーク参加施設

加算1	市立室蘭総合病院・製鉄記念室蘭病院・日鋼記念病院・伊達赤十字病院
加算2	洞爺温泉病院
加算3	上田病院・JCHO 登別病院・登別すずらん病院・聖ヶ丘病院・洞爺協会病院 三愛病院
外来加算	いぶり腎泌尿器科クリニック・本輪西ファミリークリニック 若草ファミリークリニック
未加算	太平洋病院・三村病院・そうべつ温泉病院・ミネルバ病院・豊浦国民健康保険病院

表3 地域ネットワーク合同カンファレンス

回	開催日	テーマ	参加者
2021年度 第4回 Web開催	3月8日	新型コロナウイルス感染防止対策	77名
2022年度 第1回 Web開催	6月24日	新型コロナウイルス感染症対策をテーマとした 連携施設ラウンド報告	92名
2022年度 第2回 集合開催	11月1日	新興感染症を想定した個人防護具の着脱他	46名
2022年度 第3回 Web開催	12月19日	連携施設ラウンド報告と当ネットワークにおける 抗菌薬使用動向	83名



写真1 第2回合同カンファレンス 個人防護具着脱の様子



写真2 第2回合同カンファレンス N95 マスクフィットテスト

表4 地域相互ラウンド

回	開催日	テーマ：新型コロナウイルス感染症対策
第1回	10月27日	当院 ICT が製鉄記念病院発熱外来、救急外来、感染症病棟を巡視
第2回	11月2日	製鉄記念病院 ICT が感染症病棟、正面玄関前プレハブ、外来を巡視

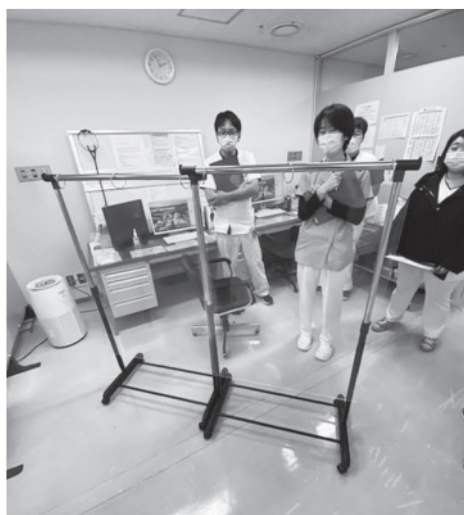


写真3 相互ラウンドの様子

表5 指導強化加算ラウンド

回	開催日	テーマ：新型コロナウイルス感染症対策
第1回	6月10日	上田病院・JCHO 登別病院
第2回	12月12日	洞爺協会病院・登別すずらん病院

5. 院内研修会 (表6)

Web開催が主となっている院内研修会であるが、今年はコロナ対応に追われ、2回の開催にとどまった。来年は再び様々な研修会を計画し、職員の感染対策の意識向上、知識の習得に努めたい。

6. その他の活動記録 (表7・8・9)

今年のICTニュースについては、新型コロナウイルスの話題を中心に作成した。ASTニュースについては、院内に周知したい事項を薬剤師が作成している。特に全医師へは個別に配布することで、リアルタイムにアナウンスすることができている。

7. 院外活動

1. 荒木大輔：①疫学と統計学 アウトブレイクの調査・介入、②感染防止技術 血流感染、講師。北海道医療大学認定看護師研修センター(2022年7月1日 札幌)
2. 荒木大輔：日本感染管理ネットワーク学会理事

おわりに

2020年をはじめより新型コロナウイルス感染症に翻弄され続け、疲弊も感じていたが、3階東病棟の清水あゆみ看護師が2023年、感染管理認定看護師教育課程への研修受講が決定した。待ちに待った2人目のICNの誕生であり、今後の院内の感染管理活動がよりパワーアップしていくものと期待している。

表6 院内研修会の記録

開催日	テーマ	演者
3月 Web開催	第2回 AST・ICT勉強会 レボフロキサシンと尿路感染症	薬局 吉嶋 邦晃
6月 Web開催	第1回 AST勉強会 ご存じですか TDM について～バンコマイシン編～	薬局 金子 圭太

表7 ICT News の記録 針刺しレポートは毎月1日

発行月	タイトル
2月	休憩時も感染対策の徹底を！
7月	新型コロナ変異株 BA.4/BA.5 が急速に広がっています。再び気を引き締めた行動をお願いします。
11月	再び増加傾向にある新型コロナ。今年はインフルエンザとの同時流行が起こるかもしれません。

表8 AST News の記録

発行月	タイトル
1月	カルバペネム系とバルプロ酸バルプロ酸 Na は併用禁忌です。
5月	抗菌薬とくっつきたい薬。
6月	抗菌薬臨床実践 TDM ガイドラインが改訂されました！
7月	Clostridioides difficile (CD) について Q&A
8月	院内でレッドマン症候群の事例がありました！
12月	セフオン静注用 1g が販売中止となります。

表9 マニュアル改訂

マニュアル改訂	〈抗菌薬適正使用支援マニュアル〉 V 薬物血中濃度モニタリング
---------	------------------------------------